平成27年度発達障害に関する教員の専門性向上事業

北広島町立壬生小学校の取組

研究テーマ

個々の児童が生き生きと学習に取り組み，学び合う授業の創造

～かかわり合い，学び合う言語活動の工夫を通して　～

授業実践①（プラン）

◆第１学年　国語科　単元名「　**おもいだしてはなそう**　」

◆本時の目標

○友だちの話の大事なことを落とさないようにしながら，興味を持って聞くことができる。

◆児童の状況と，それをふまえた指導・支援のポイント

学級全体の状況　（６月時点）
・自分の考えを話すことの楽しさを感じている。
・話す・聞くの「聞くこと」の学習は初めて
・グループ学習の経験がない

特別な支援が必要な児童の状況
・注意力が散漫になりがちで，全体への指示だけでは理解しにくい。（A児）
・急な環境の変化に対応することができず，課題ができなくなることがある。（B児）

指導・支援のポイント
・指導者と支援者で「話す人」「聞く人」に分かれてモデリングをし，活動をイメージしやすいようにする。
・支援の必要な児童へのグループ内での順番に配慮し，他の児童をモデルにする。
・事前に活動内容を予告し，見通しを持たせる。

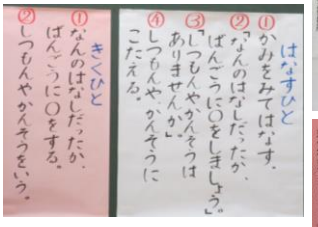
授業実践②実践の具体

①モデリング

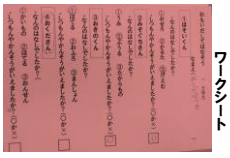
指導者と支援者で「話す人」「聞く人」に分かれてモデリングし，活動の見通しが持ちやすいようにした。

授業実践②実践の具体

②ワークシートの工夫



話す人用ワークシート



聞く人用ワークシート

「話す人」「聞く人」でワークシートを色分けし，自分が今どちらの立場にいるのかが明確になるようにした。

授業実践②実践の具体

③ICTの活用

ワークシートをタブレット経由でテレビに映し，ワークシートの記入の仕方を実際にやってみせた。

授業実践③成果・課題

【成果】

○モデリングをしたことにより，どのように活動すればよいか見通しが持てた。

○ワークシートを色分けしたことにより，グループごとの活動でも自分が今何をするのかが分かりやすかった。

【課題】

▲板書，ワークシート共に活字での情報が多すぎた。

▲それぞれのグループが一斉に話すので，聞くことに集中できない児童がいた。

授業実践④今後の改善点

【活字の情報量を減らすために】
→ クイズ形式の3択を 字ではなく，絵にして選びやすくしてはどうか。
→ １枚のワークシートに全員分載せるのではなく，冊子のようなワークシートにして1人すむごとにめくるようにしたらどうか。

【「聞くこと」に集中させるために】
→ グループの人数を減らしてはどうか。
→ グループ同士の席を，できるだけ離してはどうか。

7

普及・啓発①拠点教諭の取組

①教育支援計画，個別の指導計画の様式の見直し

・教育支援計画の中の学期ごとの短期目標や支援を個別の指導計画に移した。

→「特別支援教育ハンドブックN0.4 個別の教育支援計画作成例」をもとに，**外部機関との連携**や**長期的な目標**に絞った形式とした。

・個別の指導計画の中の長期目標を教育支援計画に移した。

→ **短期目標**や**評価**（1学期ごと）を記入する形式とし，**評価予定日**と**評価日**を書く欄を設けた。

普及・啓発②拠点教諭の取組

- **校内研修**

①広島県立教育センター　専門研修講座資料
「特別支援教育の考え方に基づいた授業づくり」

②（株）日本イーライリリー発行
「発達障害って何ですか？」
「AD/HDの正しい理解と個性を生かす支援のために」

③独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
「発達障害教育情報センター研修講義」視聴

- **北広島町初任者研修会講話**

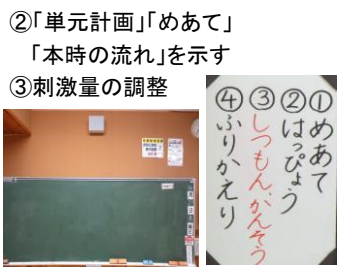
２年間の取り組みについて実践発表

9

普及・啓発③拠点校の取組

(1)「ユニバーサルデザイン」を取り入れた授業公開

①学習規律の徹底（挨拶・話し方・聞き方・姿勢）
②「単元計画」「めあて」「本時の流れ」を示す
③刺激量の調整



(2) 北広島町初任者研修で授業づくりの講話

今年度の成果・課題

	成　果	課　題
授業実践	聴覚的な支援だけでなく，**視覚的な支援**も取り入れたので，児童に見通しを持たせるのに効果があった。	説明が多くなったり**情報過多**になってしまうことがあった。
普及・啓発	ユニバーサルデザインの授業づくりについて，町の研修会や初任研で知っていただくことができた。	校内での取り組みが多く，十分に地域への発信ができなかった。

11

次年度への展望

	取組の重点
授業実践	・支援のしすぎで情報過多にならないよう，**情報を精選**する。 ・本時のめあてを達成するための支援に**しぼる**。
普及・啓発	・地域公開や研修会等で**授業を公開**し，支援の仕方について提案したり意見をいただいたりする機会を持つ。

12